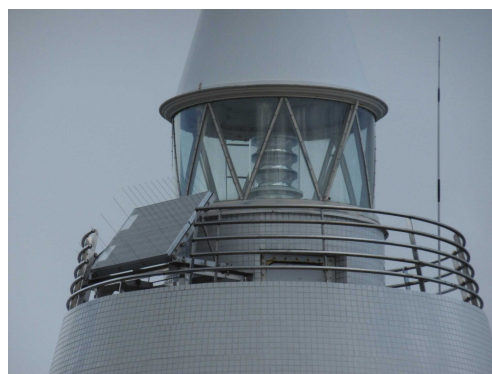


アスパム灯台点灯60周年記念イベント

青森港北防波堤西灯台（青森県青森港）は、1961（昭和36）年11月15日の初点以来、永きにわたり青森港に入出港する青函連絡船等多くの航行船舶の安全を見守ってきました。同灯台は、当初、どこの港にもあるような白色塔形の防波堤灯台でしたが、平成16年、港や防波堤の景観にマッチするよう青森市の背後に広がる八甲田山をモチーフにした現在のデザインに生まれ変わっています。直近には青森市のランドマークの一つとなっている高さ約76メートルの正三角形の建物、青森県観光物産館「アスパム」があることから、以来、同灯台はその形状から「アスパム灯台」と通称され、多くの地域の方々に親しまれてきました。



〔青森港と青森県観光物産館「アスパム」〕



〔青森港北防波堤西灯台（アスパム灯台）〕

●「あおもりアスパム灯台ポスト」事業開始

令和3年7月22日(木)、アスパム灯台にて「あおもりアスパム灯台ポスト」事業が特定非営利活動法人あおもりみなとクラブ(渡部正人理事長)により開始されました。口に見立てた灯台基部の通路をくぐり灯台正面に設置された郵便ポストに願いを込めて投函すると、灯台が願いを飲み込み成就するというストーリーのもと、アスパム灯台陸上側の一部には地元デザイナーにより水をイメージしたペイントが施されました。



同日、「灯台ポスト完成除幕式」が開催され、小野寺晃彦青森市長、山下雄一郎青森海上保安部長ら関係者が除幕をして完成を祝いました。

周辺の青森市中心街ではアスパム灯台等が描かれた特製ポストカードが無料で配布され、また、期間中に投函された手紙やはがきには特製の消印が押印されるということもあり、初日から多くの家族連れで賑わいました。



周辺の青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸、ねぶたの家ワ・ラッセや青森県観光物産館アスパム等とともに青森市のベイエリアを一体に楽しめる新たな観光名所の一つとなることが大いに期待されています。

なお、同ポストには、冬期に灯台までの通路が閉鎖となる前の11月30日まで、9時から20時までの間、投函可能です。 ※令和4年に終了されました。



●アスパム灯台ライトアップ

青森海上保安部では、「あおもリアスパム灯台ポスト」事業開始を記念し、令和3年7月22日（木）の日没から21時まで、同灯台を初めてライトアップしました。



〔ライトアップされたアスパム灯台〕

同日、青森駅前に新たな賑わいの拠点として完成したあおもり駅前ビーチにおいてもライトアップ等夜間のイベントが開催されており、訪れた多くの人々がビーチと共にSNS映えするデザインとなった夜間のアスパム灯台の風景を楽しんでいました。



〔あおもり駅前ビーチにおけるイベントの状況とアスパム灯台〕

●アスパム灯台パネル展

青森海上保安部では、「祝 アスパム灯台点灯60周年（還暦）」と題したパネル等を作成、周辺の青函連絡船メモリアルシップ八甲田丸やおもり北のまほろば歴史館に展示し、多くの来場者にアスパム灯台60年の歩みや航路標識の役割を紹介しました。



〔パネル「祝 アスパム灯台点灯60周年（還暦）」〕

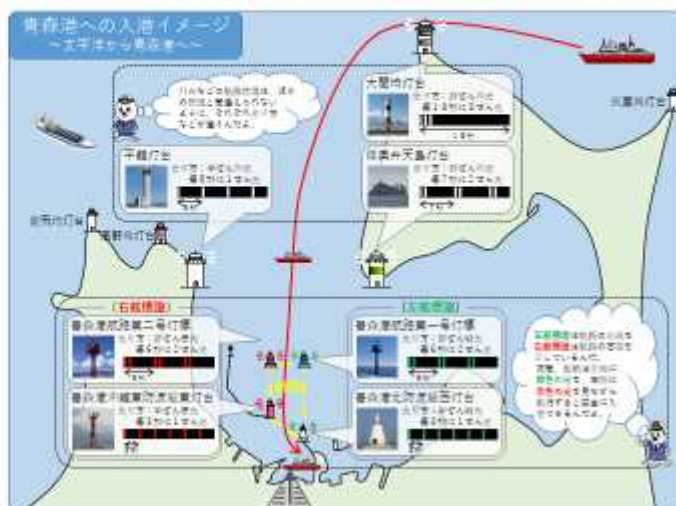
航路標識の役割

JCO 青森海上保安部

航路標識は、灯光、形象、彩色、音響、電波等の手段により、我が国の沿岸水域を航行する船舶の指標とするための施設であり、岬の先端に立つ灯台、岩礁などの障害物の存在を知らせる灯標、航路の入り口を示す灯浮標に代表され、その設置目的に応じて種類が異なります。また、外国船舶も含め不特定多数の船舶が広く利用することから、塗色、形状、灯色、光り方等の性質に関して国際的な基準があり、我が国においても国際的な基準に準拠しています。

船舶は、特別な航法の規定がある海域を除き、自由航行が原則であり、水深と自船の喫水との関係から安全かつ能率的な航海計画を立て、その航海計画に基づき常に自船の位置を確認しつつ、航行上の危険となる岩礁や構造物などの障害物避け、目的地まで航海します。

航海する船舶にとって航路標識は、自船の位置や障害物の位置を確認する際に必要不可欠なものであり、船舶交通の安全確保を図るため、重要な役割を果たしています。



〔パネル「航路標識の役割」〕

